

きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん

きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん



**2016年度 年主題〈平和をともし〉**

**1・2歳児 6月主題 「感じて」**  
月のねがい

- ◎さんびかや祈りのことばに心を合わせる
- ◎感染症に気をつけながら健康に過ごす
- ◎友だちや身近な物事に興味をもつ
- ◎遊びや自分の思いが大切にされていることを感じる

**3・4・5歳児 6月主題 「関心」**  
月のねがい

- ◎神さまの創られた自然の不思議さに目を向ける
- ◎いろいろな物を使って遊び、興味や関心が広がる
- ◎友だちや保育者の言動、遊びに心を動かす
- ◎トラブルを通して友だちの思いを知る。保育者の援助を受けながら、共に考えてみる



**「自分の思いを伝える」ということ**

子どもたちは日々成長し、色々な経験を積みながら言葉を覚えていきます。言葉がストレートに出てこなかったり、伝わらなかつたりすると、イライラしたり、叩いたり、子どもたちにも葛藤の日々です。

子どもの表現について以前、勉強会がありました。子どもの表現には、以下の三つがあるそうです。

- ①自分の言いたいことを言える。
- ② “ ” 言わないで指し示す。
- ③ “ ” 言わないでモジモジする。

確かに、大人でも自分の思いを上手く伝えることは難しいです。でも、上手く伝えられるように知恵を出し、努力をします。そして、子どもたちにも自分で言えるようになって欲しいと思うのが親心ではないでしょうか。

今年のきりすこども園の保育のテーマは「伝える」としました。子どもたちは自分の「したい!」をしっかり伝えられるように。また、保育者は、「伝えてくれてありがとう!」と言えるよう工夫したいと思っています。

子どもたちの「したい!」がこども園にいっぱい溢れるように、楽しいことを職員でいっぱい企画していきます。

園長



**今月の聖句 「平和をつくるものは幸いです」** マタイ福音書 5:9

**平和を願わない人はいない**

私は幼少の時、日本がアメリカ・イギリス・フランス・オランダ・中国を敵に回し、戦争した時に育ちました。実に無謀な戦争でした。出征軍人はその戦場で弾薬不足・食料不足の中に無残に死んでいきました。昭和20年ともなると、日本のいたるところで空襲を受け、多くの非戦闘員が焼死または爆死しました。また、私は長崎で原爆にも会いました。大きな火の玉が空いっぱいになり逃げることの限界を知りました。幸い一命をとりとめ、今日に至っております。「命をいただいた」のだと感謝しています。だから、誰よりも大きな声で「戦争はだめ」「平和を作ろう」と叫んでいます。

**平和は他人に求めるのではなく、自分が作り、自分が平和を実感するもの**

平和は互いに他者と協力しなければならぬことは勿論ですが、これが難しい。他者が納得して同調すればの話ですが、最終的には自分個人の決断の問題ではないでしょうか。自分がまず、平和を実践する者となる。もっと言えば、権利を主張せず、進んで損をする勇気を持つことです。自分の利益・自国の国益を優先させると、平和は絶対築けません。自分が損をする、自分が傷つく、自分が死ぬ覚悟さえ定まれば、戦争は起きないでしょう。「失う者はそれを得、得ようとする者はそれを失う」のです。「負けるが勝ち」ともいわれます。幼な子たちに、この真理を学んでもらいたいものです。神仏に帰依すれば心が平安になり、自分自身のうちにまず平和が築かれます。

前理事長 池田公榮



**6月の行事予定**

4日(土)	家族の日参観(3才以上) 講演会「子育てを楽しむヒント」
10日(金)	歯科検診
14日(火)	給食試食会(あい組)
16日(木)	給食試食会(のぞみ組)
21日(火)	海遊び・弁当日
28日(火)	誕生会(6・7月生れ)
30日(木)	海遊び

**7月の行事予定**

七夕訪問	
5日(火)	弁当日
7日(水)	プール遊び(市営プール)
9・10日	お泊り保育(年長児)
12日(火)	プール遊び(市営プール)
19日(火)	一学期終園日 (1号午前保育)



**義援金ありがとうございました**

お陰様で、32,954円の募金が集まり送金致しました。皆様のご理解とご協力に感謝します。

**梅雨来たりなば真夏遠からじ**

園内の草花や木々も、夏に向けて一段と緑の濃さを増してきました。いよいよ雨の多い季節を迎えます。恵みの雨も長く続くと少しうとうとしイメージですが、子どもたちにとっては、これもまた楽しい時でもあります。晴れた日も雨の日も、園内で繰り広げられる子どもたちの営みは、神様が子どもたちの内側に注がれた生命のエネルギーで溢れています。

ご承知のとおり、北海道でとても心配な出来事が起こっています。小学校二年生の男の子が、山中で行方不明になっています。未だ手がかりがありません。唯々無事を祈るのみです。

山中に一人残されたのは、いたずらを戒めるための「しつけ」であつたとか。両親を批判する声も多く聞こえる中、誰でも似たような経験があり、改めて考えさせられることでもありません。「親なんだから、ちゃんとしつけて!」という言葉に敏感になり、ストレスを感じることもあるでしょう。しつけは家庭の文化とも言えます。子どもに何を大事にしたいかを伝える大切なことです。コンビニ、スマホ、コンピュータと、昔より大人の生活スタイルが随分変わりました。子どもに睡眠のリズム、食事の習慣、社会的なルールを身につけさせることが難しくなってきたり、意識する必要があります。親の責任と突き放すのではなく、社会全体で意識することが必要ではないでしょうか。寝ることは勿論、誤ったことに対してしっかりと叱ることも大切です。子どもの気持ちに寄り添い、人格を否定せず、体罰を加えないことが必要だと思えます。そして、叱った後の気持ちの切り替え、雰囲気づくりも大事。しっかりと抱きしめてあげてくださいね。

さて、子どもたちははずいぶん園生活にも慣れてきました。朝の礼拝や体操にも落ち着きを感じられます。それぞれに集団の中での自分というものにも何かを感じてきています。日々の経験から得る「驚き」や「気づき」が興味を広げていきます。子どもを、自分の思いを持つ一つの主体として捉えるならば、自らの意志であそびを選び、創り出し、遊び込む中で得る自信や意欲というものが、真に大切にしたいものです。「先生、見て!来て!」と、自分の存在を認めて欲しいと願う気持ちこそ、自律ある育ちの原動力ではないでしょうか。

湿度が上がったり、疲れも出てきて体調を崩しやすい時期でもあります。また、気候的には様々な感染症に罹りやすくなります。どうぞ早寝・早起き・朝ごはんを元気に登園できますようご協力お願いいたします。

学園長

**0才児が言葉を獲得するとき**

赤ちゃんが声帯を使って声を出し始めるのは生後2ヶ月くらいからですが、それを聞いた大人が反応する時に発声に繋がります。「ぶー」と赤ちゃんが言うと「ぶー?」と大人が言い返します。それによってあかちゃんは自分が出した音を確認することができ、今度は声帯をコントロールして同じ音を出そうとする・・・それが発声に繋がるということです。

幼児が獲得していく「ことば」は、様々な背景によって修得されないことも生じてきます。2才になってもなかなか言葉が出てこなかったり、吃音など言葉のつまづきだったり・・・

さて、昨今の学童期の言葉の乱れは看過できません。友だちが遊びに誘っても「無理」「ありえねえ」の二言ですべて退けられ、互いに「死ね・殺す」などの言葉が飛び交うなど、子どもたちの言葉の世界に拡がりがなくなってきています。また、一才半健診での初語数が年々減ってきていると感じた健診担当者の中では、健診を待つ親子の会話(親からの話しかけ)の少ないこと、ケータイを見つめる時間の方が、子どもと目を合わせる時間よりはるかに長い親たちの姿も、子どもの育ちへの影響があるのではと訴えています。

保育の現場では、子どもたちの発語や発音が改善される保育を組み立てることが、言葉の発達のみならず、子どもたちの日常を豊かに楽しくすることに繋がっていきます。お話やことば遊びを豊かに体験するには、自然や直接体験も重要です。出来るだけ本物に触れる感動や驚きを日々の生活の中で取り入れたいものです。「楽しく遊ぶこと」が、ことば遊びを行う上で基礎となります。ことばが出来る準備となる体験や楽しさを保障する事が幼児期には大切です!喜びに繋がる体験を見つける事が保育者の役割だと感じています。

**虫歯になりやすいのは...**

**大人よりも子供の歯**

乳歯や生えだばかりの永久歯はエナメル質表面の結晶構造が脆く、歯垢(プラーク)の中で酸や毒素がそれほど作られなくても、すぐに歯の表面が溶けだしてしまいます。永久歯は生えてから時間の経過とともにしっかりした結晶構造に変化していきます。

**虫歯になりやすい時期**

◇生え代わりの時期

乳歯の時期(小学生までの時期)は保護者は子供の歯のケアに注意を払いますが、成長するにつれだんだん自分だけで歯みがきをしたり、自由におやつを食べたりすることが多くなっていきます。また、生え代わりの時期は乳歯が抜けたままになっていたり、グラグラしている歯があったり、永久歯が生えてきて咬める高さにまでなるには多少の時間がかかりますので、歯ブラシがうまく当たりません。歯垢(プラーク)がどんどん蓄積することになります。奥歯の咬み合わせ・前歯の歯と歯茎の境目・歯と歯の隣り合っている面は虫歯になりやすいところです。

